

## 授業づくりのステップアップ、進んでいますか

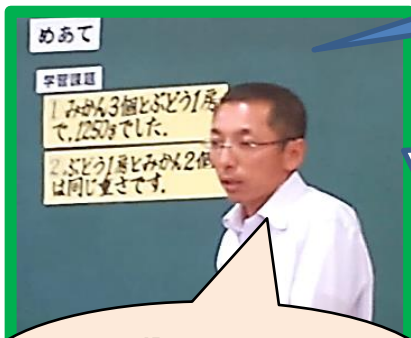
夏休みも終盤にさしかかりました。

さて、「学力向上だより 第28号」で10人の学力向上推進教員を紹介したところですが、今回は、推進教員の一人、峰松弘文先生（数学担当 勤務校:西部中、支援校:武雄中）に「授業づくりのポイント」について伺いました。

ぜひ夏休み後の授業準備に活かしていただければと思います。

### 授業づくりのポイントは？

「子どもたちが自ら考える」場をいくつも設定することです！



この情報から・・・  
何か知りたくなることは  
ないかな～？

授業者から一定の知識技能を与えるだけではなく、**子どもたちが自らが考える経験を積み重ねられるような場を授業の中で設定**しなければ、考える楽しさも自ら学ぼうとする意欲も育てることはできません。

学習課題を提示する際にも、一方的に示すのではなく、例えば、「みかんとぶどうの総重量」と「両者の重さの関係」のような要素となる事柄や状況だけを与え、そこから何が課題となりそうかを推測させて、**一緒に作っていくことも子どもたちに主体的な参加を促す1つの方法**です。

「考える」授業づくりのために！

### (ポイント1) どんな力をつけさせるのか？

まずは、その時間に**どんな力を育成したいのか**といった**指導目標を明確**にすることが大切です。その上で、扱うべき指導事項を簡潔に整理し、**何をどのタイミングで考えさせるかなどをはっきりさせておく**必要があります。

### (ポイント2) その指導、その活動は、本当に必要なのか？

**必然性のある一斉指導やグループ活動などを効果的に取り入れ**、一人で考えたり、みんなと比べたりしながら、**自分の考えを深めていく**ことが大切です。

こうした授業を通して、「不思議さ」・「驚き」・「感動」と出会い、**本来の学ぶ楽しさを味わわせる味わわせる**ことこそが今も昔も、そしてこれからも大切にされるべきです。





# 「ユニバーサルデザイン」リーフレットを開いてみませんか！

授業のユニバーサルデザイン化の考え方は、授業改善リーフレット（「授業づくりのステップ1・2・3」）にもつながっています。

「めあて」の提示や「振り返り」の実施は、全ての児童生徒に対して分かる授業を実践するための重要な要素です！

「ユニバーサルデザイン」リーフレットには、分かりやすい授業づくりのヒントが示されています。「ステップ1・2・3」の活用推進にあわせて、今一度、開いてみませんか！

佐賀県教育センター作成  
「ユニバーサルデザイン」リーフレット

**「ユニバーサルデザイン」の視点は  
授業づくりの大ヒント!!**

小・中学校の通常学級及び高等学校における  
全ての児童生徒が学びやすい授業づくりの在り方

－「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業実践を通して－

全ての児童生徒が  
学びやすい授業

「ユニバーサルデザイン」の  
視点に応じた支援



これを機会にぜひ  
開いてみましょう!!

佐賀県教育センター

詳しい内容については、ホームページでご覧ください。

ホームページへは

佐賀県教育センター

検索

研究・調査

授業に役立つ実践研究

27年度の研究成果

■お問い合わせ先■

佐賀県教育センター  
生徒指導担当

TEL 0952-62-5211  
MAIL cent\_shidou@mail.saga-ed.jp

## 「ユニバーサルデザイン」の4つの視点

「環境の工夫」「組立ての工夫」「説明の工夫」の視点に応じた支援は、学級全体の児童生徒に対して行う支援です。「個人差への配慮」の視点に応じた支援は、学級全体に対する支援を取り入れるだけでは学習活動に参加したり授業内容を理解したりすることが難しい児童生徒に、個別に行う支援です。

これらの4つの視点に応じた支援を意図的に取り入れていくことで、全ての児童生徒が学びやすい授業づくりにつながります。

### 「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業のためのチェックシート

このチェックシートは、本センターにおけるこれまでの研究内容を基に「ユニバーサルデザイン」の視点を4つ設けて、授業におけるそれらの視点に応じた支援の状況を授業者が把握することができるよう作成しました。どのような視点に応じた支援を取り入れると、全ての児童生徒が分かりやすい授業につながるのかを考えることができます。ここに挙げている項目が支援例の全てではありません。4つの視点に応じた支援例も作成していますので、活用してください。

視点	項目	達成状況	
環境の工夫	1	教室の教材や掲示物、連絡事項等の配置を意図的に行っている。	
	2	授業で使う黒板には、授業に必要なない連絡事項等を書かないようにしている。	
	3	学習用具の管理（整理や忘れ物、ワークシートの保管等）についての指導を工夫している。	
	4	課題の提出についての指導を工夫している。	
	5	発表や話し合いの仕方等、授業のルールを決めている。	
組立ての工夫	6	「導入—展開—まとめ」等のように、基本となる授業の流れを決めて取り組んでいる。	
	7	授業の導入の段階で、その授業の学習内容や学習活動の流れを示している。	
	8	授業の導入の段階で、本時の目標（めあて）を明確にしている。	
	9	説明を聞くだけでなく、個人やペア、グループで取り組む活動等を取り入れる。	
	10	授業のまとめの段階で、学習した内容を振り返らせている。	
説明の工夫	11	スピードや抑揚を意識して話している。	
	12	指示語や曖昧な言葉を使わないようにして話すようにしている。	
	13	話す内容の要点をおさえて、短い言葉で説明している。	
	14	児童生徒の活動中に指示や説明を行わないようにしている。	
	15	「1つ目は～、2つ目は～」等のように、話す内容を列挙しながら説明している。	
	16	児童生徒の注意を引き付けてから説明するようにしている。	
	17	言葉だけでなく、具体物や図、写真等を用い、視覚的に提示している。	
	18	板書の書式を決めておいたり、チョークの色を意図的に使い分けたりしている。	
	19	学習の流れに沿った板書にしている。	
	20	説明する内容を分かりやすくするために、ICT機器を活用している。	
個人差への配慮	21	つまずきが予想される児童生徒を意識して授業の準備を行っている。	
	22	つまずきのある児童生徒の様子や関わり方等について、教員間で情報交換している。	
	23	学級全体への説明だけでは理解することが難しい児童生徒に、机間指導等で個別に対応している。	
	24	書くことが苦手な児童生徒に、ワークシートを用いたり、板書の書き出しを書き添わせたりして、書く量を軽減している。	
	25	読むことが苦手な児童生徒のために、漢字の振り仮名や英単語の読み方を書いている。	
	26	話すことが苦手な児童生徒に、事前に話す内容を書かせておいたり、本人が答えやすい質問をしたりしている。	
	27	授業の進め方が難しい児童生徒に、説明や指示をする前に、呼名したり、言葉付けをしたりして注意を引き付けるようにしている。	
	28	注意の持続が難しい児童生徒のために、望ましい行動や発言に対して称賛している。	
	29	習熟度や人間関係、体力等、児童生徒の実態に配慮した座席配置やグループ編成をしている。	
	30	児童生徒の興味・関心や習熟度等に合わせた活動や課題の内容を複数用意して、選択できるようにしている。	



授業における「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じたこれまでの支援の状況は左図の通りです。視点ごとの支援例や授業実践を紹介していますので、活用してください。チェックシートを定期的に使用することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を意識した授業づくりに継続的に取り組んでいくことができると考えます。

組立ての工夫	6	「導入—展開—まとめ」等のように、基本となる授業の流れを決めて取り組んでいる。	
	7	授業の導入の段階で、その授業の学習内容や学習活動の流れを示している。	
	8	授業の導入の段階で、本時の目標（めあて）を明確にしている。	
	9	説明を聞くだけでなく、個人やペア、グループで取り組む活動等を取り入れる。	
	10	授業のまとめの段階で、学習した内容を振り返らせている。	